

「精神保健福祉ボランティア講座」特集

統合失調症などの精神疾患について学び、精神疾患を抱える当事者の方々の辛さや苦しさを理解したい。同じ地域に住む八王子市民として、何ができるのか考え、支援活動にも参加してみたい。こうした思いを持つ方々に最適の講座が、社会福祉協議会主催の「精神保健福祉ボランティア講座」です。今号では、講座の概要や講座と「いっぽの会」との関りなどについてご紹介いたします。講座に参加し、社会貢献へのはじめての一步を、踏み出してみませんか？

はじめに

八王子市内には、12の精神科病院のほか精神科の診療所やクリニックが数多くあります。精神保健福祉の基本方策が、『入院医療から地域生活中心へ』と転換したことから、精神科病院を退院し通院治療を受けながら地域で生活する当事者の方々が増えています。地域で暮らす当事者の方々は、精神疾患による辛さや苦しさと向き合いながら、自立した生活に日々果敢に挑戦しています。こうした状況を踏まえ、八王子市社会福祉協議会は、市民に広く精神疾患などを理解してもらい、地域での支える力として活動に参加することを期待して、「精神保健福祉ボランティア講座」を平成14年に開講し、今日まで継続されています。

これまで400名以上の八王子市民の方が、この講座を受講され、その後ボランティア活動などに参加しています。



ボランティア講座実習報告

講座の概要

講座の目的 : 八王子市は多くの精神科病院を抱え、退院促進により、多くの障がい者が地域での生活をしています。そこで、その方たちを地域で支えるボランティアを募集し、知識を身につける講座を開催します。

開催頻度 : 毎年9月と2月の年2回開催

講座内容 : 座学と実習、週1回(2時間程度)合計7回程度

- ・座学(5回): 「精神疾患についての基礎知識」「八王子市の行政支援」「精神障がい者を支える地域資源」「精神障がい者への接し方」「当事者の話」「精神障がい者への傾聴」「実習体験報告」等
- ・実習(2回): NPOやボランティア団体が行っている傾聴活動や精神保健施設での作業所での支援活動に実習生として参加

修了証: 一定の出席率の受講者には、社会福祉協議会より「修了証」が授与されます。

平成27年度の講座開催実績

- ・第1回講座：平成27年9月2日(水)～10月21日(水)全5回と実習2回
会場（南大沢市民センター） 修了者数（35名）
- ・第2回講座：平成28年1月20日(水)～3月9日(水)全5回と実習1回
会場（子安市民センター） 修了者数（39名）



サロン体験実習

いっぽの会との関わり

いっぽの会は、平成14年に開催された第1回「精神保健福祉ボランティア講座」の受講生が中心になり設立されたボランティア団体です。その後も講座の受講生がいっぽの会に参加し、現在会員数52名の団体になっています。会員にとって本講座が、精神保健福祉分野の「ボランティア活動の原点」となっています。また、本講座の開始以降現在に至るまで、いっぽの会は本講座の運営、実習生受け入れ等で協力させて頂いています。

社会福祉協議会担当者の言葉

(ボランティアセンター
： 松重 香さん)

地域や時代が抱える課題にいち早く気づき、悩みを抱える当事者の方々に寄り添いながら、その思いを共有できる仲間とともに活動を組織化してこられた「いっぽの会」。

このようなボランティアグループと協働し活動者を養育していくことは、ボランティアセンターが開催する講座の理想的な形だと考えています。今後も、「いっぽの会」の協力をいただきながら、精神疾患を抱える方々にとって「良き隣人」が地域が増えていくように、引き続き時代に即した、より充実した講座を開催していきたいと考えています。どうぞよろしく願いいたします。

「いっぽの会」の受講生へのアプローチ

講習会の最終日には、今後の活動の選択肢の一つとして「いっぽの会」の紹介をさせていただいています。

入会を検討している方々には、具体的な活動内容などを紹介する「オリエンテーション」を開き、いっぽの会の実態をよく理解していただいた上での入会をお勧めしています。（いっぽの会の概要は、前号の「いっぽの会だより第5号」に詳しく説明されています。）

新入会員からのひとこと

平成27年「第2回精神保健福祉ボランティア講座」を終了されたのち、いっぽの会に新しく入会された方からのひとことをご紹介します。



いっぽの会ホームページ

親子間での意思疎通の難しさを痛感しております。”傾聴”という言葉をはじめて知りました。毎日の会話では一方的に親の気持ちを伝えようとし、息子は46歳・健常者であった記憶と、プライドから抜け出せず、合意に至りません。発症後すでに8年、将来の見通しが見えなく悩んでいます。体験談の交換、及び当事者との交流を通じ、より息子との相互理解が開ければと思っています。（M・T）